

二十歳の誓い

私はずっと自分が一番である人生を歩んできました。小中高と成績優秀で褒められ、そのことを自分でも誇りに思っていました。その得意な勉強を活かして、私は第一志望の京都大学に合格しました。京大に受かったんやから、これからはずっと自信持って生きていける。そう思っていました。しかし、周りは自分より優秀な人間ばかりで、私は京大では劣等生になりました。勉強という自慢できるものを失ったことにより、自己肯定感は下がっていきました。京大の中では私は底辺なんや。特別なんかやないんや。今までの境遇からの落差に対するショックは大きいものでした。

勉強は自分自身との戦いであり、人との関わりを意識することはありませんでした。ですが勉強から離れて、いざ人の中に入ると、自分から人に話しかけることができず、話そうとしても言葉に詰まり、コミュニケーション能力が乏しいことにも気づかされました。「どこ行ってもコミュニケーション能力が必要なこの社会やったら、私はほんまに落ちこぼれやんか。」そんな考えが頭をよぎりました。

「こんなんあかん！底辺のまま終わるんは嫌や！」

何かしらの形で京大でも特別になりたい。勉強面では勝ち目がないなら別の方法を考えようと、私が立てた新たな目標は、「誰よりも面白くて充実した大学生活を送る」ということでした。

そう決めた私は、気になることになんでも挑戦して、糧となる経験をひたすら積み重ねてきました。ベトナムへの短期留学、受験生に向けた応援メッセージの発信、在来の動植物を守る環境ボランティア活動への参加など、現状を打破するために取り組んできた活動は数知れません。さらに来月には、ニューヨークに行つて英語で発表する機会も控えています。経験の豊富さと幅広さでは誰にも負けない。その強みにさらに磨きをかけられるよう、挑戦を繰り返して、誰よりも面白くて個性あふれる大学生活を作り上げていきます。

大学2年間さまざまな活動を通して、多くの人と知り合いました。少しずつですが人と関わる苦手意識は薄れてきました。それでも、私の周りにはなかなか人は寄ってきません。私と深く関わりたいという人はあまりいないのです。きっと、まだまだ人望がないということでしょう。もっと臨機応変に気の利いたことを言えるようになり、物事をわかりやすく伝えられるようになって、「人に頼られるような人間になりたい」と私は思っています。

「何にでもチャレンジ」をテーマに有意義な大学生活を送るという目標は、まだ2年残っています。これからも様々なことにチャレンジし、経験と知識を積み重ね、コミュニケーション能力を向上させて、自分の世界を広げていきます。これを「二十歳の誓い」とさせていただきます。